

## 小学校出前授業

シビルNPO連携プラットフォーム常務理事 協働推進部門長  
日本ファシリティマネジメント協会 伊万マサミ 研究部会副会長  
インフラメンテナンス国民会議 市民参画フォーラムリーダー

アイセイ（株） 代表取締役 岩佐 宏一



今年に入り2月の6日と13日の2日間、待ちに待った「小学校出前授業」を行った。小学5年生を対象に5・6時限目（1コマ45分×2コマ）の社会科の特別授業として『インフラとは何か』、『インフラを大切に使わないとどうなるのか』を子供たちと一緒に考えた。

約1年前の2019年1月28日にこの企画はキックオフした。

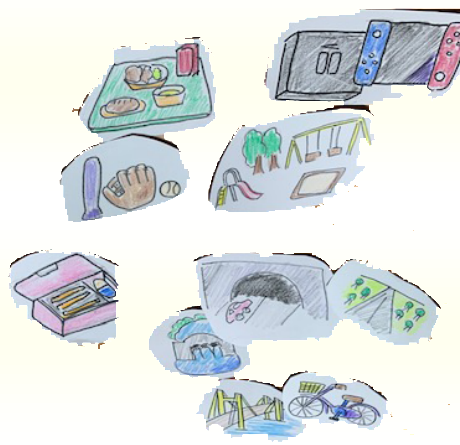
子供たちにインフラは与えられるものじゃない！自分たちのものだって知ってもらいたい！この熱い気持ちを、賛同いただいた子供向け職業体験施設で働くSさんと、どうやって子供たちにこの気持ちを理解してもらえるかを話したのを覚えている。この時から自分の凝り固まった頭（インフラはこうでこうあるべきだ！）を粉々に砕き、真正面で見えてきたインフラメンテナンスをがらり裏側から市民目線になるよう特訓が始まったことを鮮明に覚えている。

さらに2019年2月から合流した都内小学校で教鞭をとるK先生、Sさんの仲間のAさんを仲間に迎え、2020年1月の授業開催を目標に企画を加速させた。が、やはり当初からの凝り固まったわたしの企画では、K先生の理解を得られない。先生から発せられた言葉は、こどもが理解できる言葉を使い、こどもの目線で授業のシナリオを作成すること。これがとんでもなく大変だった。

ビジネスで置き換えると「ゲームチェンジ」という概念があったり、社会一般的には「も

のの見方を変える」「その人の立場になって考える」なんて言葉からやり方は山ほど出てくるが、実際やってみようとする中々手ごわい。

そもそも「インフラ」って言葉でさえ、我々は標準語のごとく用いているが、立場変われば異国のことばである。



このようなカードを作成し、このカードを2つに分けて？から始め、概ねみんなのものと個人で使うものに分けるので、「みんなで使うものがインフラなんだよ」といった感じである。

普段だったら、インフラって、橋梁やトンネル、電気、ガス…と説明を始めるが、カードを使い自ら考えながら解いていく切り口でないと、子供たちはこちらの領域に入ってくないらしい。

これが目線を変えることのようなのだ。

さて話を戻すが、小学5年生は社会科で何を学んでいるかご存知でしょうか？こちらは出前授業で「インフラ」という情報を小学生へ与えることができれば済むものだと考えていたが、とんでもない。小学校5年生になるまでに学んだ社会科、これから学ぶ社会科から、どの場面で違和感なく伝えることができるかと言ったカリキュラムも重要だ。言われれば当たり前なことかもしれないが、こちらはド素人。授業をする学年やタイミングも重要なことであることを学んだ。

4年生や5年生の社会科の教科書、学習指導要領の確認、すでに実施されている出前授業の調査、〇〇科学館といった会場視察をすることで出前授業コンテンツの構成やどのように話せば伝わるのかを、少しずつではあるが理解することができた。

毎月の打合せを重ね、やっとの思いで2019年12月にリハーサルに挑む。授業を終えた夕方に小学校へ行き、がらりとした教室で授業のリハーサルを行った。

リハーサルを数回繰り返し、撮影したビデオを見て、本番に向け修正することとなった。

出前授業本番、1年間の成果を發揮し子供たちにインフラの大切さを伝えることができるか。現場スタイルである、作業着にヘルメット、安全帯、安全チョッキ、安全靴、小物のヘッドライトや点検ハンマー、コンベックスを携えて



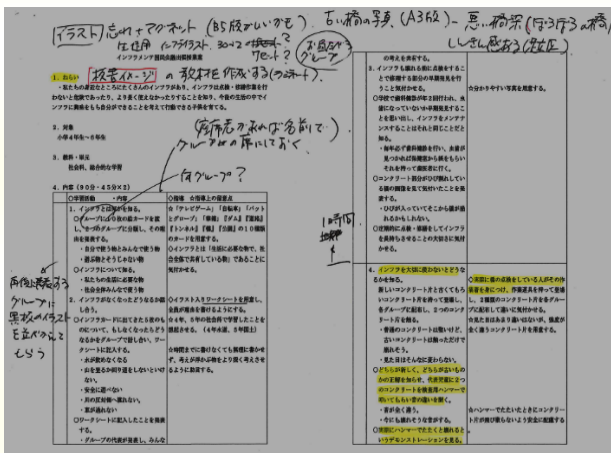
このスタイルの掴みから、子供たちの反応はなかなかで授業にすんなりと入ることができた。

インフラカードからインフラを知り、インフラがなくなったらを話し合い、インフラを点検している姿から点検や措置することで長持ちさせる意味を、そしてみんなでできることをグループワークで学んだ。1年間の成果があつという間の45分×2コマの授業となった。

子供たちから、私たちができることがあると思わなかった。インフラがないと生活が大変だということ。できることをやるというのが心に残りました。私もできることは協力していきたいと思いました。…ありがとう。

今年度も他区も含めて出前授業を拡大します。

この楽しさにご興味がある方、是非ご一緒しませんか。限られたメンバーではなく、多くの方に参加してほしいと思っております。



### リハーサル時のシナリオ

1コマ45分の限られた時間のなかで、シナリオを片手に授業を始めた。同時に説明用資料をスライドで流し、本当に伝えたい箇所を計画した板書イメージを元に、黒板にフリップを貼る。この間子供たちがいるかのように質問や答えを話す。まったくの余裕がない自分に子供たちがいたらどうだったんだろう。伝えたいことが半分も話すことができないと…感じた。